様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 １１ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１２６８３

研究課題名（和文）「かわいい」とは何か－ビジュアル・ナラティヴによる多文化心理学の異種むすび法

研究課題名（英文）What Is "Kawaii"? A Diverse Joint Methods for Multicultural Psychology by Visual Narrative

研究代表者
山田　洋子（YAMADA, YOKO）

立命館大学・OIC総合研究機構・上席研究員

研究者番号：２０１２３３４１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：「かわいい」という感性を明確にするために、ビジュアル・ナラティヴによる「かわいい」画像の共通性を分析し、「スーパーかわいい」モデルを作成すると共に、「小さい似たものがならぶ」「つつまれた入れ子」など新しい視点を発見した。「かわいい」を日本文化論のなかに位置づけ、「いき」と比較すると共に、ほほえみの表情、あたたかい、やわらかい触感や共感覚と関連づけたデザインのアイデアを提案した。ビジュアル・ナラティヴに適用できる新しいメディアミックスの質的方法論「異種むすび法」を開発し、医療実践や社会支援に役立つワークショップ法を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ビジュアル・ナラティヴは、認知や知能を中心に研究されてきた心理学において、感性やイメージやメタファー、共感覚や共感を重視する新しい観点を開拓する。新しいメディアミックスの質的方法論「異種むすび法」は、狭義の言語中心であったナラティヴ・アプローチに対して、視覚イメージによる対話という新しい観点と方法をもたらす。ビジュアル・ナラティヴは、参加者が楽しく実践でき、作品をつくる生成と変容プロセスを実感でき、作品の発表会で対話的共同生成の場をつくることが可能になる。ビジュアル・ナラティヴは、専門家教育や各種研修、特にワークショップに向いており、医療実践や社会支援やビジネスに役立つと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In order to clarify the feeling of "Kawaii(cuteness)", I analyzed the commonality of "Kawaii" images by visual narrative and created a Super Kawaii Model. I discovered new perspectives of “Kawaii” such as "small similar things line up" and "nesting". I discussed "Kawaii" in Japanese cultural theory, compared it with "Iki", and proposed ideas of design that were associated with smiley expression, warmth, soft touch and synesthesia. I developed a new media mix qualitative method applicable to visual narratives, the "Diverse Joint Method," and developed workshop methods that were useful for medical practice and social support.

研究分野：生涯発達心理学、ナラティヴ心理学、質的心理学

キーワード：ビジュアル　ナラティヴ　かわいい　日本文化　ワークショップ　デザイン

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

「かわいい」という感性は、日本だけではなく国際的に注目されるようになったが、直感的なフィーリングなので概念で説明することは難しい。「かわいい」は、おもに二つのアプローチで研究されてきた。

（１）比較行動学や心理学研究。比較行動学（エソロジー）では、ヒト、イヌ、トリなど多くの生物に共通する赤ちゃんの形態的・行動的特徴を調べ、ベビーシェマと呼ばれる特徴を見いだした。この系譜を引く心理学の愛着研究などでは、「かわいい」を生物的生存戦略として、機能・実用面からとらえ、文化的美意識を見落としている。

（２）少女文化論や現代社会論。「かわいい」を、単に現代風俗や消費社会の流行と見るのではなく、21 世紀の美学として学問のまな板に載せる必要がある。「かわいい」は、「あはれ」「幽玄」「わび」「いき」などと並んで、世界にも通用する日本文化の心理をあらわす美意識として積極的に研究すべきと考えられる。

２．研究の目的

「かわいい」という感性を明確にするために、日常生活の実感から出発してボトムアップにモデル化すると共に、ビジュアル・ナラティヴを用いた文化心理学の理論と研究方法を開発する。

(1)「かわいい」とは何か、ビジュアル・ナラティヴによる生き生きした実感に即した方法で説明し、新しい視点や新しいデザインの可能性を提案する。

(2)「かわいい」を、「あわれ」「幽玄」「わび」「いき」などと並ぶ、日本文化の心理をあらわす美意識の一つとしてとらえ、それらを関連づけて理論化する。

(3)ビジュアル・ナラティヴに適用できる新しいメディアミックスの質的方法論「異種むすび法」を開発する。

(4)ビジュアル・ナラティヴの理論と方法を明確にし、国際発信すると共に、広く社会に役立つ実践的方法を開発する。

３．研究の方法

(1)「かわいい」とは何かを解明するために、「かわいい」と感じる多様な画像を収集し、それらに共通するビジュアル的な特徴を分析し、新しい視点を発見し、それらを説明するモデル生成を行う。

(2)「かわいい」という感性を、日本文化の心理を表す美意識としてとらえ、特に「いきの構造」と比較することによって、「かわいい」の心理的理論モデルを提案する。

(3)「かわいい」研究を、ナラティヴ（もの語り）アプローチとむすびつけることにより、ビジュアル・ナラティヴというメディアミックスによる新しい研究方法「異種むすび法」を開発する。

(4)ビジュアル・ナラティヴを理論化し、国際発信を行うとともに、各種のビジュアル・ナラティヴ・ワークショップを企画し、実践しながら社会的に有用な方法を開発する。

４．研究成果

(1)ビジュアル・ナラティヴによる「かわいい」画像の共通性の分析結果。大学生 31 人に「かわいい」と感じる画像データを 3 枚ずつ提出してもらい、それらを 3 人の研究者が別個に「異種むすび法」で図解化して分析した。標準化した定型の方法ではなく、多様な視点や互いのズレを積極的に生かすためである。その結果、次のような「かわいい」に共通する特徴を見いだした。これらの特徴は、ベビーシェマと共通しているが、個々単独ではなく全体として複合していることが重要であった。それらの特徴を組みあわせてシミュレーションして、「スーパーかわいい」モデルを作成した（やまだ・木戸①）。

①顔と表情。特にほほえみの表情。
②丸いかたちと柔らかい触感。
③しぐさと動作。特に手の配置。
④雰囲気と空間配置。全体的に淡い色づかい。

(2) ビジュアル・ナラティヴによる「かわいい」画像の分析より新しい視点の提案。集められた画像の中には、「ほほえむ赤ちゃん」のように誰もが「かわいい」と思う画像のほかに、なぜ選ばれたかわからないものもあった。それらは、新しい視点を提供してくれると考えられた。そこで検討を重ね、次のような新しい視点が得られた。

①小さい似たものが並ぶとかわいい。双子、サクランボ、おはじき、アイドルグループなど小さ

い似たものが並ぶとかわいいと感じられる。これらは、自他の分離や分化を促すものではなく、共感的同一視をもたらし、繰り返しのリズムによる共振的な効果を生むのではないかと考えられた。
②つつまれた入れ子はかわいい。毛布、おくるみ、フード、手や腕や膝、鍋や皿や箱、ベッドや部屋の中など何かにつつまれると、かわいく感じられる。何かにつつまれた入れ子は、単独で立つことができず、究極の「受け身」であり、自身を何かにゆだねた姿である。環境と関係なく単独で立つ像、独立した裸身を造形するギリシア彫刻に衣装はいらないが、「かわいい」ものは周囲との関係性のなかで共感しながら存在するので、何かでつつみたくなるのである。

(3)「かわいい」と日本文化論に関する考察１、共感を生む「ほほえみ」の表情との関連。「かわいい」の文化心理学的モデルの生成や、「いき」「わび」「あまえ」などと比較した日本文化論は、まだ理論化の途上であるが、「かわいい」は、次のように共感の表情と関連するのではないかと考えられた。
①「かわいい」と「ほほえみ」の関係。「ほほえむ」ものは「かわいい」し、「かわいい」ものは「ほほえみ」をもたらし、表情が表情を共鳴させる。
②「ほほえみ」は「おかしい」という情感につながる。「おかしい」の古語は、清少納言が「かわいい」に関して多用していた「をかし」である。現代では、こっけい、おもしろい、興味深い、格別の趣がある、魅力がある、可愛い、愛すべき、奇妙だ、変だなどの意味に使われる。語源的には、おこ（痴）の形容詞化といわれ、笑うさまから転じて、微笑をさそうさま、気のきいた趣のあるさま、というように意味が広がったといわれる。もう一方では、「行く」に対する「ゆかし」のように、「おく（招く）」に対する形容詞で、「好意をもって招き寄せたい気がする」を原義とする説もある。
③「かわいい」が「おかしい」というユーモアを生み出す情感につながることは重要である。「かわいい」は、「ゆるキャラ（ゆるいキャラクター）」や「きもかわ（きもいとかわいいの中間）」「ぶさかわ（不細工とかわいいの中間）」など、現代に発展した派生語に見られるように、どこかユーモラスな表情を生み出す。正統派の美人や整った均整美からは逸脱するけれど、ゆるんで、ほぐれて、呆けて、ほほえみを生みだし、ほっと安心できる感覚につながるのである。

（４）「かわいい」と日本文化論に関する考察２、「やわらかい」「あたたかい」共感覚との関係。
①「かわいい」ものは、「やわらかい」感じがする。やわらかいものは、あたたかく心地よく仕合わせな感覚を生み出し、「かわいい」とむすびつく。丸いかたちをつくる「やわらかい」曲線は、やわらかい感触とむすびつく。この感触も、皮膚感覚である。赤ちゃんの肌、つきたてのおもち、蒸したてのおまんじゅう、ふんわりしたふとん、ひよこの羽毛、子猫の毛並み、マシュマロ、カステラ、プリン、それらやわらかいものを視覚的に見るだけで、ふれたときのやわらか、ふっくら、ふわふわの感触が思い起こされる。ふれたときの記憶がよびさまされるだけではなく、実際には、ふれたことがなくても、やわらか、ふっくら、ふわふわをイメージすると、共感覚的な心地よさが生み出される。
②平和な時代は「かわいい」ものが愛好される。「かわいい」ものが愛好されたのは、平安時代と江戸時代である。清少納言は、「なにもなにも、ちひさきものはみなうつくし」とかわいいものを愛でる文章を書いた。江戸時代は、今まで武士道の精神が強調されてきたが、それとは逆に、「丸山応挙の子犬」「歌川国芳の猫」と称されるように、現代のペット・ブームに匹敵するようなかわいい生きものの絵が多く描かれたことを忘れてはならない。
③「かわいい」ものは、「あたたかい」感じがする。まるいもの、やわらかいものは、あたたかく心地よく仕合わせな感覚を生み出し、「かわいい」とむすびつく。寒い日にぽかぽか「あたたかい」陽だまりで丸くなって昼寝をしている猫は「かわいい」。膝の上に抱いた猫の体温がほかほか伝わってくるのも「かわいい」。人間は恒温動物であり、寒すぎず暑すぎず暖かい天候で、冷たすぎず熱すぎず温かい温度で暮らすときに心地よく感じるのは、自然の原理である。「あたたかい」「つめたい」という皮膚感覚も、視覚と共感覚的にむすびつく。
④あたたかさを感じさせる赤系の色、ピンクや黄色などは暖色と呼ばれる。つめたい感じの青や緑系の色は、寒色と呼ばれる。「あたたかい」は、心地よい感覚であるが、いつも魅力的とは限らない。あたたかいものは、子どもっぽく、むさくるしい。コールド（冷たい）とまでもいわないが、クール（涼しい、さわやか）で冷めているほうが落ち着いて洗練されたカッコイイ大人の魅力と感じられることもある。「かわいい」は、「あたたかい」を経由して、洗練されない「ださい」ものとなる。ピンクやオレンジや黄色などの暖色は、少しであれば「かわいい」が、分量が増えるとださい「少女趣味」になる。桜のピンク色は、まだ寒い季節に春を告げるように枯れ木にいち早く咲くので「かわいい」が、深々と木々の緑が燃える季節に咲く濃いピンクの大輪のつつじは、装飾過多で暑苦しい感じになりかねない。

（５）「かわいい」と日本文化論に関する考察３、「かわいい」と「いき」の関係。
①九鬼周造は『「いき」の構造』において、「いき」とは第１に異性に対する「媚態」、第２に「意気地」、第３に「諦め」であると分析した。「かわいい」のゆるみは、武士道と禅宗の精神に裏打ちされた「いき」の洗練された緊張した美意識や、意気地や意地や、強がりやツッパリとは対極といえるほど遠いといえる。

②「かわいい」は、「ゆるい」「なごむ」「癒やされる」ものであり、弛緩した、脱力した、弱みをさらした表情と関係する。それは、自分をしばっていた堅いものがやぶれ、こころが「ほどける」感性、自他がゆるやかに接近して一体化し、やさしく「なごむ」感性とかかわっている。「いき」が自力だとすれば、「かわいい」は他力である。

（６）デザインへの提言。「かわいい」「あたたかい」ものは、近代以降のモダンデザインにおいては、そぎ落とされてきた。「スマート」「クール」「シャープ」ということばで表される機能的で合理的な美意識のほうが重視されてきたからである。モダンデザインは、合理的で明解で、クリアーで硬質で、機能的で整然とし、装飾や余分なものを排する方向にすすんだ。建築では、「禁欲的で完璧な白い四角い箱」に行き着いた。それを批判したポストモダンデザインは、逆に多様性、装飾性、折衷性、過剰性などを特徴としていた。現代は、ポスト・ポストモダンの時代だともいわれる。かわいい、あたたかい、やさしい、ほのぼのとする、ほほえみをもたらす心地よい自然体のデザインが、単なる近代批判や反動や素朴さへの回帰ではなく、新しい美意識を生み出すことができるか問われるところである。特に、見る主体と見られる対象を分離するのではなく、両者を共感、共振、共鳴させるデザイン、さまざまな媒体を複合して共感覚を共同生成するトータルとしてのデザインが求められる。

(７)ビジュアル・ナラティヴを用いた新しいメディアミックスによる「異種むすび法」の開発。ビジュアル・ナラティヴの研究において、図像データの収集は容易であるが、そこから何を見いだすのか分析方法が難しい。ともすると、いきいきした豊かで多様なイメージを生かしきれず、「形」「色」など既存の概念にあてはめて分析してしまいがちである。そこで本研究では、多様な研究者がビジュアルによるナラティヴ（図像データの図解化）と狭義の言語によるナラティヴ（図解の言語化）を繰り返し往還することで、新たな視点を見いだす「異種むすび法」を開発した（やまだ・木戸①)。この方法は、「はなれ」「かさね」「うつし」「ずらし」「むすび」という５つのアクションで構成された。

(８）ビジュアル・ナラティヴの理論化と国際発信。ビジュアル・ナラティヴは狭義の言語を用いたナラティヴよりも翻訳の困難が少なく、多文化アプローチと国際発信に適している。ビジュアル・ナラティヴ研究は、グラフィック・メディスン国際学会、国際理論心理学会、国際心理学会、国際行動発達学会などで発表し高い評価を得た。ビジュアル・ナラティヴの特徴を理論化すると、次の６つの革新的特徴があることがわかった（やまだ②)。
①対人関係の変革、二項関係から三項関係へ。
②時間と空間概念の変革、時間と空間の分断を超え、時空間へ。
③身体イメージの変革、メタファーによる外在化と変形による身体イメージの自由化へ。
④自己とアイデンティティ概念の変革、個人としての自己から多声的自己の同時共存へ。
⑤情報処理の変革、ビジュアルは異文化の壁を越え短時間で全体イメージを喚起し移動も容易。
⑥コミュニケーションの変革、認知から共感とイマジネーションへ。

(9)ビジュアル・ナラティヴの社会実践。
①ビジュアル・ナラティヴは、医療において患者さんの病いの経験を語ってもらうのに、言語よりもイメージで語ることができるので、医療や臨床支援に役立つ。本研究では、ビジュアル・ナラティヴによって糖尿病患者や透析患者の語りを調べ、医療現場で大変役立つことがわかった（やまだ・山田③など）また、子どもを失った親の喪失の語りにおいても、イメージ画によるビジュアル・ナラティヴによる支援が効果的であった。
②やまだのビジュアル・ナラティヴの概念を使ってビジネスやデザインへの応用もはじまっている。それらの社会実践から、ビジネス関連の書（野中④）や、都市の建築現場の生成プロセスを考察する書（真壁⑤）も出版された。ビジュアル・ナラティヴは、医療、教育、ビジネス、デザインなど、さまざまな社会実践に広く生かすことができると考えられる。

(10)ビジュアル・ナラティヴによるワークショップ法の開発と実践。
①ビジュアル・ナラティヴは、参加者が誰でも楽しく実践でき、作品をつくる生成と変容プロセスを実感でき、作品の発表会をすることで他者と三項関係をつくり、対話的共同生成の場をつくることが可能になる。そこで、ビジュアル・ナラティヴは、専門家教育や各種研修、特にワークショップに向いていると考えられる。
②本研究では、「絵本や紙芝居つくり」「イメージ画による語り」「コラージュによる語り」など多様なビジュアル・ナラティヴを用いた教材とワークショップ法を開発し、学会や大学や社会団体などで実践して、参加者から高い評価を得た。

＜引用文献＞
①やまだようこ・木戸彩恵（2017)「かわいい」と感じるのはなぜか？-ビジュアル・ナラティヴによる異種むすび法　質的心理学研究　16,7-24.

②やまだようこ（2018）ビジュアル・ナラティヴとは何か　やまだようこ（編）ビジュアル・ナラティヴ-視覚イメージで語る　N:ナラティヴとケア　9号　2-10．　遠見書房
③やまだようこ・山田千積(2018)　糖尿病患者のビジュアル・ナラティヴ―三項関係ナラティヴのモデル　やまだようこ（編）ビジュアル・ナラティヴ-視覚イメージで語る　N:ナラティヴとケア　9号　11-20．　遠見書房
④野中郁次郎（編）ナレッジ・フォーラム　講義録　東洋経済出版社
⑤真壁智治（2020）臨場　渋谷再開発工事現場　平凡社

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 やまだようこ	４．巻 51
２．論文標題 ナラティヴとアクションリサーチ	５．発行年 2018年
３．雑誌名 看護研究	６．最初と最後の頁 382-388
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 やまだようこ	４．巻 創刊準備号
２．論文標題 ビジュアル・ナラティヴ-時間概念を問う	５．発行年 2017年
３．雑誌名 こころの科学とエピステモロジー	６．最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://sites.google.com/site/epistemologymindscience/	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 やまだようこ	４．巻 9
２．論文標題 ビジュアル・ナラティヴとは何か	５．発行年 2018年
３．雑誌名 N:ナラティヴとケア	６．最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 やまだようこ・山田千積	４．巻 9
２．論文標題 糖尿病患者のビジュアル・ナラティヴ	５．発行年 2018年
３．雑誌名 N:ナラティヴとケア	６．最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 やまだようこ	4．巻 17
2．論文標題 しなやかな復活力	5．発行年 2018年
3．雑誌名 質的心理学研究	6．最初と最後の頁 235-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 やまだようこ	4．巻 7
2．論文標題 喪失と巡礼－宮澤賢治と村上春樹のナラティヴ	5．発行年 2018年
3．雑誌名 身心変容技法研究	6．最初と最後の頁 87-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://waza-sophia.la.coocan.jp/data/nennpou/nennpou73.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 菅波澄治・やまだようこ	4．巻 9
2．論文標題 透析患者のビジュアル・ナラティヴ	5．発行年 2018年
3．雑誌名 N:ナラティヴとケア	6．最初と最後の頁 21-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 やまだようこ	4．巻 19(1)
2．論文標題 書評『ライフストーリー研究に何ができるか――対話的構築主義の批判的継承』	5．発行年 2016年
3．雑誌名 社会言語科学	6．最初と最後の頁 221-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 やまだようこ・木戸彩恵	4．巻 16
2．論文標題 「かわいい」と感じるのはなぜか？-ビジュアル・ナラティヴによる異種むすび法	5．発行年 2017年
3．雑誌名 質的心理学研究	6．最初と最後の頁 7-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計56件（うち招待講演　18件／うち国際学会　5件）

1．発表者名 やまだようこ・家島明彦
2．発表標題 ビジュアル・ナラティヴの最先端
3．学会等名 日本心理学会第83回大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 やまだようこ
2．発表標題 ビジュアル・ナラティヴの理論と方法
3．学会等名 日本質的心理学会第16回大会（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 やまだようこ・家島明彦・濱田裕子・横山草介・後藤一樹
2．発表標題 ビジュアル・ナラティヴの実践性と多様性
3．学会等名 日本質的心理学会第16回大会
4．発表年 2019年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴとしての俳句
３．学会等名 日本質的心理学会第16回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 坂井志織・杉林念・細野知子・榊原哲也・やまだようこ
２．発表標題 現代の病い経験を捉える新しい概念生成に関する現象学的研究―多様なデータからの議論を通して
３．学会等名 日本質的心理学会第16回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 やまだようこ・浦田悠・麻生武・高田明・木下孝司・神崎真実
２．発表標題 フィールド研究における日誌法の意義
３．学会等名 日本発達心理学会第31回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ことばとものがたりの発生と意味世界
３．学会等名 日本発達心理学会第31回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 やまだようこ・家島明彦・いとうたけひこ・滑田明暢・神崎真実
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴによる教育と支援
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴによるワークショップ
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴの理論と方法
３．学会等名 日本心理学会第82回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ・南博文・石井宏典・大城凌子
２．発表標題 場所の力とスピリット－沖縄で語りあおう
３．学会等名 日本質的心理学会第15回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 死と再生のライフサイクル－この世とあの世を巡る祭祀
３．学会等名 日本質的心理学会第15回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 視覚イメージで語る－ビジュアル・ナラティヴ
３．学会等名 日本質的心理学会第15回大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 渡辺恒夫・小島康次・浦田悠・新山喜嗣・三浦俊彦・やまだようこ
２．発表標題 精神医学と現象学的心理学から死と他者の形而上学へ（第２報）：『人文死生学宣言』の誕生
３．学会等名 日本質的心理学会第15回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 能智正博・保坂裕子・やまだようこ・無藤隆・抱井尚子
２．発表標題 質的研究の評価基準を明確にしようとするAPAの試み
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 金田俊子・岡花折一郎・荻原元昭・藤原佳典・やまだようこ・川田学
２．発表標題 高齢者の人格発達を考える ― 活動を中心とした生涯発達過程論基軸に
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 やまだようこ・家島明彦・濱田裕子・土元哲平・神崎真実・浦田悠
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴと身体イメージ
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 病む身体のイメージと共感メタファー
３．学会等名 日本発達心理学会第30回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yoko Yamada
２．発表標題 Time and the life cycle: Visual narratives and cultural representations.
３．学会等名 The 17th Biennial Conference of the International Society for Theoretical Psychology.（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴの理論と方法
３．学会等名 日本心理学会第81回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴとは何か？－時間概念の変革
３．学会等名 日本心理学会第81回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴとケア－人生と病いの語り
３．学会等名 日本発達心理学会第29回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 病む身体のイメージと表象化－当事者のビジュアル・ナラティヴ
３．学会等名 日本発達心理学会第29回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 「時間」と「アイデンティティ」概念の問い直し-ビジュアル・ナラティヴより
３．学会等名 日本発達心理学会第29回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 家島明彦・やまだようこ・横山隆俊・長谷川泰二・赤井孝美
２．発表標題 ライフストーリーの映像化－ビジュアル・ナラティヴとしてのメモリアル・アニメーションの可能性
３．学会等名 日本質的心理学会第14回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 坂井志織・鈴木智之・細野知子・菊池麻由美・やまだようこ
２．発表標題 治癒せざるものの治療のために―病い経験を捉える新しい概念生成に向けて
３．学会等名 日本質的心理学会第14回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 竹尾和子・神野 潔・根ケ山光一・津波古澄子・やまだようこ
２．発表標題 沖縄の「子育て・教育への共同的営み」を形作る歴史・文化・人々―「子育て・教育の共同的営み」としてのアロマザリングとＰＴＡ
３．学会等名 日本教育心理学会第59 回総会
４．発表年 2017年

１．発表者名 能智正博・やまだようこ・Vivien Burr・青野篤子・東村知子
２．発表標題 社会構成主義と生涯発達心理学－Vivien Burr先生を迎えて
３．学会等名 日本発達心理学会第29回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 喪失と巡礼－宮澤賢治と村上春樹のナラティヴ
３．学会等名 第57回身心変容技法研究会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 もの語りが心を動かす－ビジュアル・ナラティヴを活かす
３．学会等名 ホンダ研修会（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 人生をもの語る－負の体験の語り直しとキャリア発達
３．学会等名 Tuku-場フォーラム（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 もの語りと生成力－ビジュアル・ナラティヴ
３．学会等名 ナレッジ・フォーラム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴとケア
３．学会等名 ナラティヴ・コロキアム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴの時空間
３．学会等名 ナラティヴ・コロキアム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 社会・情動発達とコミュニケーション：子どもは他者との関係をどのようにとらえるか（指定討論）
３．学会等名 日本発達心理学会第27回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 レジリエンスを育成するビジュアル・ナラティヴ（話題提供）
３．学会等名 日本発達心理学会第27回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 レジリエンスを育成するナラティヴ・レッスン：負の体験からしなやかに復活する方法（企画・司会）
３．学会等名 日本発達心理学会第27回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 自己語りと人生の時間：生涯発達の視点から（指定討論）
３．学会等名 日本発達心理学会第27回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yamada, Y. & Yamada, C.
２．発表標題 Diabetic patient’s visual narratives of illness
３．学会等名 7th International Comics & Medicine Conference（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yamada, Y. &, Kido, A.
２．発表標題 Why Do We Feel “Kawaii”?: A Diverse Joint Method for Visual Narratives
３．学会等名 24th Biennial Meeting of the International Society for the Study of Behavioral Development（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yamada, Y.
２．発表標題 Visual narratives of life and illness
３．学会等名 The 31st International Congresses of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yamada, Y.
２．発表標題 Visual narratives and visual mediation in triadic relationships
３．学会等名 The 31st International Congresses of Psychology（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 「かわいい」とは何か？：新しい発想を生成するビジュアル・ナラティヴ（話題提供）
３．学会等名 日本質的心理学会第13回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴの方法論と現実を変革するイマジネーション（企画・司会）
３．学会等名 日本質的心理学会第13回大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 死生に向き合う際，他者との関係は生の糧となるか，それとも重荷となるか― 死生心理学の展開（2）（指定討論）
３．学会等名 日本発達心理学会第28回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 レジリエンスを育成するビジュアル・ナラティヴ（日本発達心理学会・日本質的心理学会合同シンポジウム）（話題提供）
３．学会等名 日本発達心理学会第28回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ・サトウタツヤ
２．発表標題 発達心理学と生涯発達心理学の断絶を超えて－質的心理学は何ができるか？（日本発達心理学会・日本質的心理学会合同シンポジウム）（企画）
３．学会等名 日本発達心理学会第28回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 私のもの語りから公共する協同態のもの語りへ
３．学会等名 京都フォーラム（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 もの語りと生成継承性（Narrative and generativity）
３．学会等名 ファーストリテリング研修会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 ビジュアル・ナラティヴの生成力
３．学会等名 京都フォーラム（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 もの語りが心を動かす：ビジュアル・ナラティヴを生かす
３．学会等名 ホンダ技研研修会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 人生をもの語ることの意味：しなやかに再構成する
３．学会等名 高松市民大学（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 将来世代と共に公共化する協同態のもの語り：ビジュアル・ナラティヴ
３．学会等名 京都フォーラム（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 もの語りと生成力－ビジュアル・ナラティヴ
３．学会等名 ナレッジフォーラム（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 人間研究のパラダイムシフト－私の人生と生涯発達心理学
３．学会等名 北海道大学教育学院特別講演（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 やまだようこ
２．発表標題 人生のイメージとライフサイクル（基調講演）
３．学会等名 第28回日本発達心理学会（招待講演）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計7件

１．著者名 岡本　祐子、上手　由香、髙野　恵代、鑪幹八郎、森岡正芳、大野久、やまだようこ、宇都宮博、平石賢二、杉村和美、渡邉照美、井川ひとみ、児玉真樹子、奥田紗史美、神谷真由美	４．発行年 2018年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 496
３．書名 世代継承性研究の展望	

１．著者名 能智 正博、香川 秀太、川島 大輔、サトウ タツヤ、柴山 真琴、鈴木 聡志、藤江 康彦、やまだようこ、青木美和子、青柳肇、青山征彦、秋田喜代美他240人	４．発行年 2018年
２．出版社 新曜社	５．総ページ数 432
３．書名 質的心理学辞典	

１．著者名 やまだ ようこ	４．発行年 2019年
２．出版社 新曜社	５．総ページ数 360
３．書名 ことばのはじまり－意味と表象	

1．著者名 やまだ ようこ	4．発行年 2019年
2．出版社 新曜社	5．総ページ数 320
3．書名 ものがたりの発生－私のめばえ	

1．著者名 秦野悦子・岩立志津夫・権藤桂子・やまだようこ・小椋たみ子・高橋登・小林春美・久津木文・瀬戸淳子・岩田吉生・大伴潔・大井学・川崎聡大	4．発行年 2017年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 334
3．書名 言語発達とその支援	

1．著者名 やまだようこ・藤永保・子安増生・矢野嘉夫・木下孝司・石黒広昭・二宮克美・大浜幾久子・高橋登・落合正行・吉田甫・田島充司・西野泰宏・茂呂雄二他81名、田島信元・岩立志津夫・長崎勉（編）	4．発行年 2016年
2．出版社 福村出版	5．総ページ数 1004
3．書名 新・発達心理学ハンドブック	

1．著者名 やまだようこ・澤穂希・鎌田洋・西田深雪・東井義雄・岡本重和・矢田清香・山本美香・武田正樹・椋鳩十・横光晃・倉橋耀子・竹村冨士子・山折哲雄他19名、吉澤良保・越智貢・ 島恒生（監修）	4．発行年 2016年
2．出版社 日本文教出版	5．総ページ数 160
3．書名 中学校道徳　あすを生きる 2	

〔産業財産権〕

〔その他〕

やまだようこ
http://www.ritsumei.ac.jp/~yyr12085/yyamada.htm
立命館大学研究者学術情報データベース　山田洋子
http://research-db.ritsumei.ac.jp/Profiles/120/0011941/profile.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考